

## JR芦屋駅南再開発事業が暗礁に 事業中止の最悪の危機！！

事業効果は、芦屋市の未来への投資です。あのままの駅前の状態でいいのでしょうか？  
「よくない」「ダメ！NO！」という声が圧倒的でしょう。

本年3月の芦屋市議会において、新年度予算のうちJR芦屋駅南再開発関連予算及びJR芦屋駅南特別会計予算が否決されました。現在は暫定予算でギリギリの運営を行っています。反対する議員たちは関連事業費が増大することなどを理由に挙げています。また芦屋市の財政が破綻し、北海道の夕張市のようになるとも主張しています。たしかに、用地費・建築資材費・人件費等が当初見込みより増大し、今後の社会情勢にも影響されることは考慮しなければなりません。この事業で年間約7,000万円の固定資産税などの税収が見込まれることも明らかになりました。また、財政破綻する理由の基金（預金）は将来予想であって、このような財政状況にならないようにしよう！とする指針でしかありません。この事業は芦屋市にとって昭和21年（都市計画決定）からの長年の懸案でした。平成29年、当時の山中前市長時代によろやく事業が開始されました。市議会でも合意形成がなされ、その後、現在の伊藤市長に引き継がれたものです。昨年度は実際の工事も開始され、約20億円の市費が投じられました。中止の経費は未知数！莫大な費用が発生することに触れない議員が多いのです。

国の補助金である今年度分の12億円が申請できない状態です。  
このままでは、JR芦屋駅南地区の再開発事業ができなくなります。  
いざ、いつか事業をやろうとするにも国や県補助金はもらえないのは必然です。

## ！ JR西日本への補償金が発生か？ ！

駅舎改築を伴うJR西日本との協定が反故にされることで、  
解約の問題も起こることが予測され、協力いただいた地権者の方々を含め、  
損害賠償問題の発生や新快速が芦屋ではなく他市（西宮）へ停車するという可能性なども懸念されます。

## 芦屋市の現計画予想図



左の未来予想図は芦屋市の狭い土地を有効に利用することに着目するとバラバラに点在する施設はショップを線で結び、回遊性が高い地域として面整備をすることです。幸いに、JR芦屋南地区は素敵なショップや公園、文化財などがあります。そして阪神芦屋・打出駅まで延長することで街に活性化と賑わいを作り出す。これをイメージしたものです。

## JR芦屋駅南からの未来予想図



Point

モンテメールのリニューアルは若い世代へシフトチェンジしました。

若い世代が住みたい街「あしや」  
次世代はどんな街づくりを望んでいるのでしょうか？

Keyword

「賑わいと活気のある街」

JR芦屋駅南は南地域からのバスの乗り入れ → 利便性  
利便性の高い交通広場、子育てや若い世代が望む施設を → 公共性

回遊性

点在する芦屋市の魅力を点（その場所）として見ないで、地域全体を面として考えると・・・

景観環境



国登録有形文化財になった「旧宮塚町住宅」や茶屋之町「さくら通り」の綺麗な街並みやおしゃれなお店が点在しています。

## 「宮塚公園」「大樹公園」もイベントが出来る素敵な公園

阪神芦屋駅や打出駅のエリアへの賑わいの創出も可能なのです。芦屋スランドを活かす！

JR芦屋南地域から阪神芦屋へ！阪神打出へ！芦屋の未来のために絶対に必要なのがJR芦屋駅南の再開発事業です。

JRから阪神へ



にぎわいと活力

みなさん一緒に  
未来の芦屋を考え  
作り上げていきましょう



茶屋之町  
さくら通り 裏面へ